

畜産基地「阿蘇」に学ぶ



▲ 大草原の中、やがて到来する厳しい冬に備えての乾草収納。
遠くの放牧場に草をはむ乳牛がみえる。



▲ 研修生の表情

は底抜けに明るい。大自然の山懐に抱かれて現在32名(うち女性2名を含む)の若者たちが明日の畜産に意欲的に取り組んでいる。



▲ 肉牛の健康状態を気づかう飯田直子さん23歳。熊本市京町出身。父親の経営する山林での林間放牧を希望し、東京農大卒後入所。なんでもやってやろう式のファイトウーマン。

▼ 研修所の朝は早い。まだ夜も明けぬ5時には搾乳がはじまる。船越のり子さん23歳酪農志望。福岡の商業高校を卒業後、本所入所。本科1年を経て、現在研究科に学ぶ心根のやさしい娘さん。花婿募集中とか。



▲ 講義に真剣に聞かいる研修生。

草地畜産高等研修所の

若者たち

阿蘇北外輪山の広大な原野の中、大観望より西へ八キロ、斧岳山麓に連なる草原に「熊本県草地畜産高等研修所」がある。

当研修所は実践を通して、草地畜産経営に必要な科学的技術と企業的能力を培わせて、地域営農の中核となる後継者を養成するところである。現在、本科二十七名、研究科(本科卒業の者または大学卒業の者)五名、計三十二名の若者たちが全寮生活の中で一年間の研修に意欲的に取り組んでいる。

研修所の朝は早い。夜もまだ明けぬ午前五時、畜舎は搾乳、清掃に精を出す若者たちで既に活気に満ちている。六時十五分点呼、八時半から酪農・肉牛コース別に分かれての講義、実習。そして、六時半の夕食から十時の消

灯まで、研修生の生活日課はまさに分刻み。それでも研修生の顔には束縛された者の暗さがない。明るく、そして礼儀正しい。目標を確かに見定めた着実な歩みがそうさせるのだろうか。やがて厳しく長い阿蘇の冬が到来する。来年三月、この自然の試練を見事乗り越えた若者たちは、心身ともにたくましくなり、研修所を後にするという。

住所・阿蘇町西湯浦端辺一四五四
TEL・〇九六七三—二二二二